

感じる東京ディズニーシー

耳を傾けると聞こえるカーニバルの音楽、運河を走るゴンドリエが歌う「サンタルチア」、目の前に広がるオレンジの建物、季節ごとに咲き誇る美しい花々...これはどこでしょう？

実は東京ディズニーシーで感じることのできるものです。

ディズニーリゾートというと、どれだけ効率良くアトラクションに乗ることができるか、どれだけ良いポジションでショーを見ることができるか、何種類のフレーバーのポップコーンを食べることができるか。そんなことに努力しなければならないという、意外と忙しいイメージがある方も少なくないのではないのでしょうか。今回はそんなイメージを覆すような、新しい楽しみ方を皆さんにご紹介したいと思います。

さあ！ 一緒に、幻想の旅に出かけましょう

まずは、東京ディズニーシーで、ゆっくりとベンチに腰掛け、耳を澄ませてみてください。場所は、例えばメディテレーニアンハーバーの端の方。アメリカンウォーターフロントに入るちょうど境目あたりに、「スチームボート・ミッキーズ」というお店があるので、そのちょうど裏手にあるベンチ。そこに座り、目を閉じてみましょう。すると様々な音が聞こえてきます。聞こえてくるのは、ゴンドリエの歌う「サンタルチア」の音楽、そしてカーニバルのリズム、メディテレーニアンハーバーで戯れる水の音、そしてもちろん遊びに来ているゲストのはしゃぐ声。そんな活気にゆったりと耳を澄ませていると、私はいつもきうきした気持ちになってくるのです。こんなにも、楽しく明るい雰囲気のある場所には普段生活していたらなかなか出会えないですからね。行ったことはないけれど、本物の南ヨーロッパもこんな雰囲気なのだろうか...と遠い場所に思いを馳せます。思う存分南ヨーロッパの活気を味わったあと、私は歩きだします。

アメリカンウォーターフロントは、20世紀初頭の活気あふれるアメリカの町並みが再現されています。ここでも、先を急がないで。耳を傾けると、タップダンスの音、ピアノを弾いている音が、聞こえてくるのです。これは、建物の2階3階部分で、エンターテイナーの卵たちが、ブロードウェイミュージックシアターでデビューするために、練習している音なのです。人はいないけれど、きっと「今日はオーディションの本番なのかな？」「今日はリズムが冴えているな」と、感じ取ることができるのです。実際は、いつも同じなのかも知れないですけどね。

そんなアメリカンウォーターフロントを抜け、和やかなケーブコッドの町を通過すると、今度はロストリバーデルタという、中央アメリカがテーマとなった場所に到着します。ここで私は、「触る」ということを楽しみます。中央アメリカの生い茂った木々や草、そしてごつごつとした岩たち。そんなものに手を触れると、太古の歴史を感じます。ここに佇む木や岩たちは、人間達の営み、或いは争う姿を静かに見つめてきたのでしょうか。余談ですが、ゴミ箱一つでも、実はエリアごとに形状が異なります。それらを探すだけでも、そのエリアの歴史、細やかさにまで触れることができるので、私はそれらを写真に撮ってコレクションをして楽しみます。

太古のアメリカ、ロストリバーデルタを抜けると、次は最終目的地であるアラビアンコーストです。

この建築は、アラビアの町を精巧に再現してあります。テーマは、映画「アラジン」に登場した宮殿の世界と、活気溢れる市場を再現しているのですが、特にショップなどがある市場の部分は、建物と建物の間に空間と日陰が出来るように工夫されており、湿気が多く暑いアラビアで空気がうまく循環されるような工夫がなされていると言います。これは、そこで働くキャストが教えてくれたことです。こんな文化の違いを、日本に居ながら感じることもできることも東京ディズニーシーの良いところでしょう。

心をときめかしながらの世界旅行はいかがでしたか

こんな風にして、たまには時間に追われることなく、五感を研ぎ澄ましながら、東京ディズニーシーを楽しんでみてください。すると、きっと今までには気付かなかった発見に出会えるだけでなく、退園する頃には、あなたの心により豊かな感受性が芽生えていることでしょう。

(株)オリエンタルランド 横田 恵理子)